

# 平成27年度宮古群島病害虫発生予報第12号(3月予報)

## I 3月の気象予報

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

	気 温	降 水 量	日 照 時 間
高い(多い)	40	40	30
平 年 並	40	30	40
低い(少ない)	20	30	30

(平成28年2月25日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

平年値

	平均気温(°C)	最高気温(°C)	最低気温(°C)	降水量(mm)	日照時間(h)
宮古群島(宮古島)	20.0	22.7	17.7	137.8	112.0

(沖縄気象台発表・統計期間1981～2010・資料年数30年)

## II 3月の発生予報および防除上の注意事項

### 1 さとうきび

- カンシャシクイハマキの防除対策
  - a 2月中旬の調査の結果、新植夏植ほ場における芯枯茎率は6.1%(前年9.7%、平年9.4%)と平年よりやや低かったが、一部ほ場で多発した。
  - b 2月のカンシャシクイハマキ合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は8.0頭(前年4.8頭、平年20.0頭)と平年よりやや少なかった。
  - c 芯枯茎切開調査の結果、確認されたメイチュウ類幼虫のうち47.1%がカンシャシクイハマキであった。
  - d ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
  - e 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、生育初期の防除を徹底する。
  - f ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
  - g 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元間に散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
  - h 培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
  - i 平成27年度病害虫発生予察注意報第1号(平成27年4月30日付)参照。
  
- バッタ・イナゴ類の防除対策
  - a 2月中旬の調査の結果、一部地域でタイワンツチイナゴによる食害が観察された。
  - b 発生源となるほ場及び周辺の除草を徹底する。
  - c 平成27年度病害虫発生予察技術情報第1号(平成27年6月1日付)参照。

### 2 マンゴー

- チャノキイロアザミウマの防除対策
  - a 2月中旬の調査の結果、一部施設で発生が確認された。
  - b 黄色粘着トラップ当たり日当たり誘殺虫数は0.1頭未満(前年0.4頭、例年0.1頭)と例年よりやや少なかった。
  - c 不用な新葉は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。
  - d 新梢をよく観察し、初期防除に努める。
  - e 発生源となる施設内外の雑草を除去する。
  - f 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
  - g 平成27年度病害虫発生予報第5号(平成27年7月27日付)コラム参照。

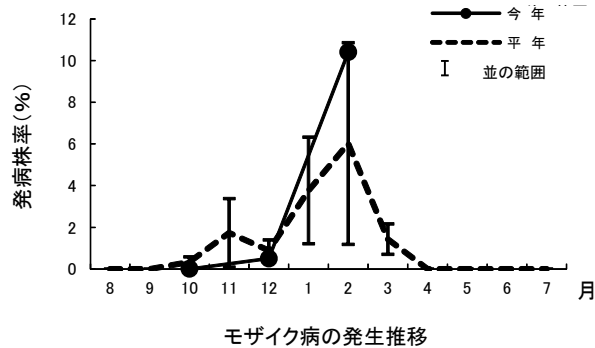
### 3 カボチャ

#### (1) モザイク病

発生程度：並

予報の根拠

- a 2月中旬の調査の結果、発病株率は10.4%(前年0%、平年6.0%)と平年並みであった。
- b 媒介虫であるアブラムシ類の有翅虫が一部ほ場で観察された。



<防除上注意すべき事項>

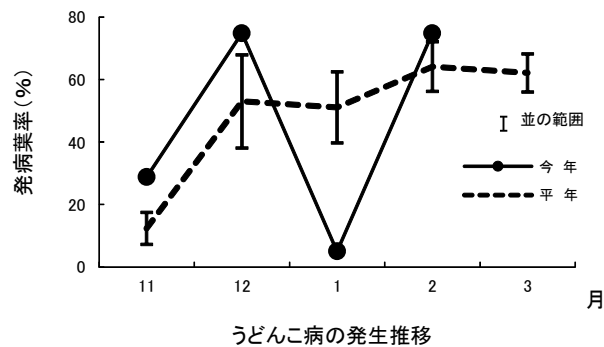
- a ほ場周辺に防風対策を兼ねた防虫ネット等の資材を利用してアブラムシ有翅虫の飛来侵入を防ぐ。
- b ほ場周辺の雑草はアブラムシ類の発生源になるので除去する。
- c 発病株は発生源となるので、みつけ次第抜き取りビニール袋に入れるなどして密閉処理し、ほ場外へ持ち出し処分する。
- d 本病は汁液伝染するので、ハサミや手の消毒、洗浄を行う。
- e 収穫後の残さは発生源となるので速やかに片づける。
- f 平成27年度病害虫発生予察技術情報第3号(平成27年11月30日付)参照。

#### (2) うどんこ病

発生程度：やや多

予報の根拠

2月中旬の調査の結果、発病葉率は74.8%(前年38.6%、平年64.1%)と平年よりやや高かった。



<防除上注意すべき事項>

- a 株元の老葉を除去し、透光・通風をよくする。
- b 多発すると防除が困難になるので、葉の表裏をよく観察し、早期防除に努める。
- c 着果後は防除を徹底し、収穫時まで出来るだけ多くの健全葉を確保する。

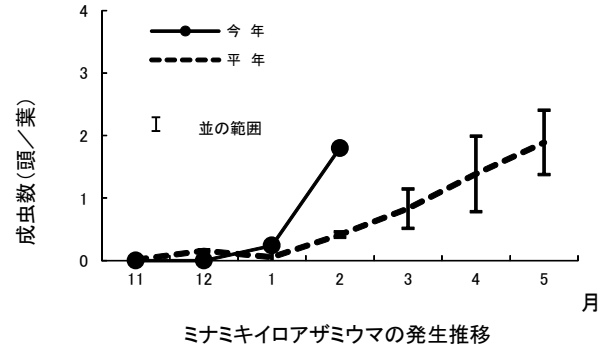
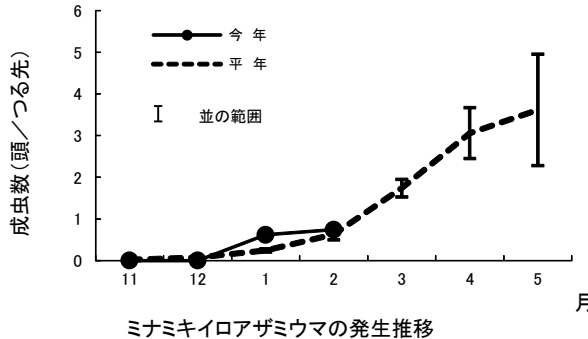
## 4 とうがん(施設)

### (1) ミナミキイロアザミウマ

発生程度 : 多

予報の根拠

2月中旬の調査の結果、つる先当たり成虫数は0.7頭(前年1.2頭、平年0.6頭)と平年並であり、葉当たり成虫数は1.8頭(前年0.6頭、平年0.4頭)と平年より多かった。



<防除上注意すべき事項>

- 発生源となるほ場内外の雑草を除去する。
- 除去した寄主植物はビニール袋などに密閉し、施設外に持ち出し処分する。
- 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- 平成27年度病害虫発生予察注意報第4号(平成28年1月29日付)参照。

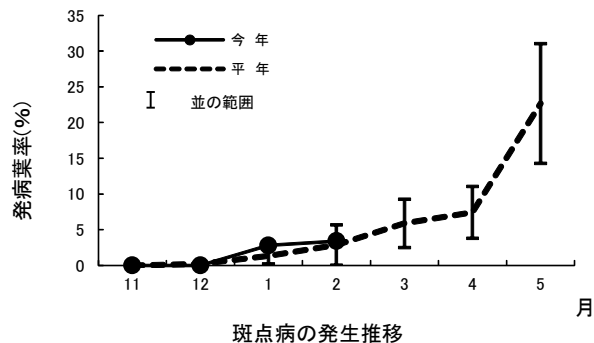
## 5 にながうり(施設)

### (1) 斑点病

発生程度 : 並

予報の根拠

2月中旬の調査の結果、発病葉率は3.4%(前年0.8%、平年3.4%)と平年並であった。



<防除上注意すべき事項>

- 老葉や病葉は発生源になるので除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
- 過繁茂を避け、透光通風を良くする。
- 多湿にならないよう、施設内の換気に注意する。
- 中～下位葉をよく観察し、初期発見・初期防除に努める。
- 平成27年度病害虫発生予察注意報第3号(平成28年1月29日付)参照。